

2022 ジャパンパラ水泳競技大会

【 競技上の注意事項 】

1 競技要領と競技方法

- ・ 本大会では、クラス S1/SB1/SM1～S14/SB14/SM14 は WPS 水泳競技規則による。国際クラスに該当しない視覚障がいと肢体不自由の選手のクラスは、クラス S21/SB21/SM21 として実施し、WPS 水泳競技規則を準用する。S15/SB15/SM15 は FINA（国際水泳連盟）競泳競技規則による。
- ・ WPS 水泳競技規則は、WPS ホームページ (<http://www.paralympic.org/swimming/rules-and-regulations>) に掲載されている。
- ・ 内容の主なものについては（一社）日本パラ水泳連盟（JPSF）ホームページ (<http://paraswim.jp/>) に掲載の JPSF 競技運営指針競技規則の項目を参考にされたい。
- ・ 本大会は3日間での開催とし、それぞれの日で予選・決勝を行う。全ての選手は、予選のレースを泳がなければ、クラス別決勝レースに出場できない。
- ・ 決勝レースには、予選において上位8位までの選手が出場できる。ただし、予選出場者が8名以下の種目の競技は、予選で失格せずに泳いだ選手が、記録に関わらず決勝レースに出場できる。
- ・ 決勝進出は、同記録で予定人員を超えた場合、スイムオフを行う。該当する選手は、その種目結果の公式掲示（公表）時間から15分以内に本部に来ること。なお、補欠が同記録で複数いる場合は、抽選を行う。
- ・ 計時のバックアップは半自動計時装置を使用する。
- ・ ゴールタッチはタッチ板の有効面に確実にタッチすること
- ・ バックプレート、バックストロークレッジ付のスタート台を使用する。調整は各自行い、確実に固定されていることを確かめること。
- ・ 予選は組のみの紹介とし、決勝はゲートから入場し、選手紹介を行う。
- ・ 失格による抗議は、公式結果公表後30分以内に所定の様式（抗議用紙）に必要な事項を記入の上、抗議料10,000円を添えて大会本部に提出すること。（失格の理由を聞くことは抗議ではない。）抗議が却下された場合、抗議料は（公財）日本パラスポーツ協会（JPSA）の所有となる。
- ・ 本大会では、上訴審判団は設置しない。

2 スタートリスト

- ・ 予選のスタートリストは、JPSA 及び JPSF ホームページに掲載する。
決勝のスタートリストは予選終了後、速やかに JPSA 及び JPSF ホームページに掲載する。
- ・ 予選は、種目ごとにエントリータイム順に原則として女子・男子の順に行う。
- ・ 決勝は、種目ごとに原則として女子・男子、クラス別に行う。

3 招集

- ・ 密集を避けるため、招集所への集合時間を、レース開始予定時刻の15分前以降7分前までの8分間とし、それ以外の選手は招集所付近も含め、待機を禁止する。招集所には該当レースに出場する選手、介助者1名のみ入ることができる。なお、棄権の場合は、レース開始予定時刻の1時間前までに所定の用紙（棄権届出用紙）に必要事項を記載の上、競技デスクに届けること。
- ・ 各選手は、招集所でビニール袋を受け取り、プール入場時に持参する。自レーンで脱いだ衣類等をすべてビニール袋に入れ、カゴに置くこと。

4 デッキアクセス等（介助申請）

- ・ スタートリストにコードオブエクセプション（以下 CoE とする）「A」、「T」、「Y」の記載がある選手は、必要な介助のために介助者が競技エリア内に入場できる。これらの CoE を持たない選手においては、介助者が競技エリア内に入場するためには、各セッション開始時刻の1時間前までに競技エリア内入場申請をし、認められなければならない。（申請用紙は選手受付で配布、競技デスクへ提出）なお、今大会では競技役員による介助は行わないので、介助者（タッパー含む）は選手側で準備すること。また、S14/SB14/SM14 クラスの介助申請や競技エリア入場許可申請は認められない。申請用紙は JPSF ホームページ (<http://paraswim.jp/>) からダウンロードできる。

5 スタート

- ・ スタートは1回のみとし、やり直しは行わない。他の選手がフォルススタートを行った場合でも、出発合図員の号砲でスタートすること。
- ・ 水中スタートをする選手は、審判長の笛の合図で水中に入り、競技規則に沿ったスタート姿勢をとること。なお、プール横から入水する選手は、予選では組の紹介後、決勝ではゲート入場後、自レーンで衣服を脱ぎ、速やかにプール横に移動すること。
（なお、予選では選手紹介は行わないので、組の紹介が終われば、速やかに移動すること。）
- ・ 聴覚障がいの選手のスタート合図は、笛や発声による音声での合図の部分については、出発合図員の動作により表現するので、出発合図員に注目すること。（手話通訳は、合図は行わない。）

6 ゴール後は…

- ・ 全選手が泳ぎ終わるまで自レーンで待機すること。待機した選手は、全選手が泳ぎ終わった後、審判長の2回のショートホイッスルの後、原則として1~4レーンの選手は1レーン側のプールサイドから、5~8レーンの選手は8レーン側のプールサイドから退水すること。

7 視覚障がいの選手は…

- ・ S11/SB11/SM11 クラスで、CoE (RE)「B」の選手は、透けて見えない黒のゴーグルを着用すること。競技終了後、プールサイドで確認する。
- ・ S11/SB11/SM11 クラスの選手は、ターンとゴールの際、タッパーが競技者にプールの端に近づいたことをタッピングにより、知らせなければならない。S12/SB12/SM12 クラス、S13/SB13/SM13 クラスの選手にはタッピングの義務はないが、タッピングをしてもかまわない。但し、競技者がプールの端に近づいたことを音声によって知らせることは許されない。競技役員はタッピングを行なわないので、タッピング用のデバイスならびにタッパーは各自で用意すること。

8 手話通訳者

- ・ 手話通訳者は、原則として招集所に配置し、必要に応じ、各所で通訳を行う。

9 表彰

- ・ 決勝のレース終了後、各クラス3位入賞者までをまとめてスタート側プールサイドで表彰を行う。
- ・ 完泳した選手で希望する者に記録証を授与する。記録証は記録証受渡所で渡すので、参加当日の全競技終了後30分後までに各自取りに来ること。（記録証の郵送は行わないので各自留意すること。）

10 記録速報の掲示

- ・ 記録速報の掲示は行わない。JPSA 及び JPSF のホームページに随時アップロードする。

11 受付および練習について

- ・ 選手受付は1階で行う。入口で消毒、検温を行い、選手受付で「体調チェックシート」を提出すること。
- ・ 受付開始時間は、9月16日（金）は12時30分、17日（土）、18日（日）は、8時15分、19日（月・祝）は、7時45分とする。
- ・ メインプールは、16日13時～18時（レーン指定、水深2.0m）、17日・18日・19日の予選前は、受付開始後から予選競技開始時刻20分前まで使用できる。予選終了後から決勝競技開始20分前までは決勝進出者のみが使用できる。ただし17日は開始式を行うため、決勝開始30分前までとする。
- ・ 公式スタート練習は行わない。
- ・ サブプールは、17日～19日の受付開始後から決勝終了後30分まで使用できる。
※16日は使用できない。
- ・ メインプールでは、パドル、コードは使用禁止とする。
- ・ ダイビングプールは、大会期間中は原則として使用禁止とする。

12 アンチ・ドーピング

- ・ ドーピング検査の実施については、開催要項の記載による。
- ・ ドーピング検査の結果、陽性反応となり、違反が認められた場合は、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。

13 水着・所属表示等について

- ・ 本大会の水着に関する規程は、原則としてすべて FINA 及び WPS の競技規則による。選手は FINA 公認の水着を着用すること。水着のチェックは招集所で行う。規定に外れる水着を着用して泳いだ場合の記録はすべて参考記録扱いとなり、決勝への出場はできない。着用できる水着は1枚のみとし、水着の重ね着は禁止する。水着へのテーピングおよび2次加工は禁止する。ただし、障がい上の理由で FINA マークのついていない加工された水着または FINA マーク剥離の水着を着用する場合は、事前に大会本部に届け出て、許可を受けなければならない。
- ・ 競技エリアで着用するユニホーム等の表示は、介助者、スタッフを含め次のもの以外は認められない。
 - ①自分の氏名、所属の名称やマーク、
 - ②国旗・国または地域の名称、都道府県や市町村の名称やマーク、
 - ③公式競技会および公認競技会のシンボルマークや主催者が認めたもの、
 - ④水着、ウエア等のメーカーロゴ・マーク、
 - ⑤事前に届出承認がされている、スポンサーロゴ、それぞれの大きさや数については、【表】のとおりとする。

【表1】

マークの種類/用途	水着についてよい大きさや数	ウエアについてよい大きさや数	その他のものについてよい大きさや数
自分の氏名、エントリーした所属の名称、マーク、国旗・国または地域等の名称やマーク、公式・公認競技会のマークや主催者が認めたもの。	50 cm ² 以内で1か所。	大きさ、数に制限なし。	大きさ、数に制限なし。
メーカーのロゴ・マーク	メーカーロゴまたはマークは30 cm ² 以内で1か所。	メーカーロゴは40 cm ² 以内で1か所。マークは20 cm ² 以内であれば数に制限なし。	メーカーロゴは20 cm ² 以内で1か所。マークは20 cm ² 以内であれば数に制限なし。
事前承認されたスポンサーロゴ	30 cm ² 以内で1か所。	40 cm ² 以内で1か所。	20 cm ² 以内で1か所。

※1 それぞれの大きさ（サイズ）は着用前の面積とする。採寸方法は正方形または長方形とみなし、縦×横で面積を求める。それぞれの面積は最大を示し、その範囲内であれば大きさに規定はない。

※2 ワンピース水着の場合は、ウエストより上に1つ、ウエストより下に1つ許され、ツーピース水着の場合は、上部に1つ、下部に1つが許される。ただし、これらの商標名は相互に隣接しておくことはできない。

14 クラス分け

- ・ クラス分けは、競技中の観察も含まれる。クラス分け委員の指示に従うこと。
- ・ 適切な医学的情報の提出がない場合、あるいは持てる能力を発揮しない場合などで「クラス無し（非協力的、意図的な虚偽申告等）」と認定された場合、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。また今大会以降のWPS公認競技会には、参加できない。
- ・ 競技観察の結果、出場したクラスから変更になった場合、確定したクラスでの記録となる。
- ・ クラス分けについては、JPSF ホームページ掲載「2022J - FCS クラス分け規則」を参考にすること。

15 傷害のある選手

- ・ 傷口が開いている等、テーピングや絆創膏を必要とする傷害のある状態で出場を希望する選手は、事前に競技デスクに申し出たうえで、本大会メディカルスタッフの許可及び審判長の承認を得なければならない。許可及び承認を得ないで出場した場合は失格となる。

16 国際登録選手と記録の公認

- ・ IPC のライセンスプログラムに基づき WPS ライセンス登録をした選手については、WPS へ記録を報告する。

17 新型コロナウイルス感染症対策について

- ・ 次の基準に一つでも該当する場合は、入場できない。
 - 参加日に「体調チェックシート」を提出できない場合
 - 「体調チェックシート」において感染症が疑われる場合
 - 参加日当日時点で濃厚接触者に該当している場合
 - 入場時検温で37.5度以上の体温がある場合
 - その他、大会への参加不相当であると主催者（大会感染対策責任者）が判断した場合
- ・ 選手に同行する介助者、家族及びコーチ等は、選手に同伴して入場すること。
- ・ 参加中に発熱等感染を疑う症状が認められた場合は、その時点で参加不可となる場合がある。
- ・ JPSA の定める感染症対策ガイドライン等をよく読んで参加すること。

18 その他

- ・ 予選と決勝の間に休み時間をとる。9月17日（第1日目）の決勝開始前に開始式を行う。
- ・ 会場における事故等については、応急処置のみとし、その他の責任は負わない。
- ・ 室温は28度位、水温は28度位とする。
- ・ 大会終了後、引き取りがなかった記録証については主催者で処分する。（郵送は行わない。）
- ・ 忘れ物については、主催者で2週間保管した後、処分する。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の防止のために大会の日程を変更、または中止する可能性がある。各選手は主催者（JPSA）のホームページ等を随時確認すること。